

特別支援教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

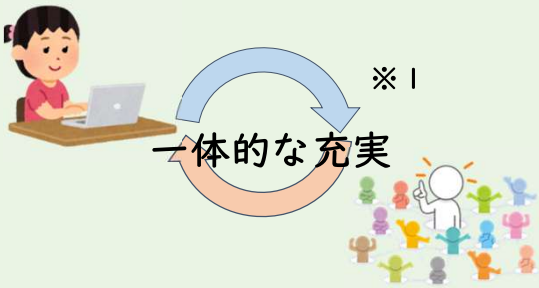
障がいのある児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るためには、ICTを「教科指導の効果高める視点」と「障がいによる学習上又は生活上の困難さを改善・克服する視点」を組み合わせ活用し、それにより実現される学習活動の効果を確認しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが重要です。

年間指導計画

個別の教育支援計画

単元指導計画

□ 「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど一体的な充実を図る。



※1

特別支援教育におけるICT活用の視点

視点1

教科指導の効果高める

個別最適な学び

指導の個別化 学習の個性化

協働的な学び

視点2

障がいによる学習上又は生活上の困難さを改善・克服する

※2

組み合わせ

↑ ↓

個別の指導計画

授業

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ※4

学習評価 ※3

資質・能力の育成

※1 R6手引
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」



※2 R5手引
「自立活動の指導の充実」



※3 R4手引
「学習評価の充実」



※4 R2手引
「主体的・対話的で深い学びの実現」



視覚障がい教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

年間指導計画

単元指導計画

視覚障がいのある児童生徒は、主に聴覚や触覚を活用して情報を得て学習する。

- 情報を聴覚や触覚で把握するための指導内容や方法、教材・教具の活用場面等を明記する。

直接経験することが難しい内容や初めての内容については、理解するのに時間を要する場合がある。

- 基礎的・基本的な事項の定着を図る時間と、習得した知識・技能を活用する時間を明確に示す。

授業

学習評価

個別の教育支援計画

視覚障がい教育におけるICT活用

視覚障がいのある児童生徒には、拡大や音声化による情報保障だけでなく「情報を調べる」「分類する」「記録する」ことにも活用することで、自ら問題解決的な学習等に主体的に取り組めるようにする。

教科指導の効果を高める

ICTの使用例	効果
【個別最適な学び】 点字ディスプレイやパソコンで、調べたり記録したりする。	学習効率が上がり、主体性が向上する。
【協働的な学び】 撮影した写真や動画、録音した音声データを友達と共有し、問題の解決を図る。	対話を通して学びが深まる。



障がいによる学習上又は生活上の困難さを改善・克服する

見えにくさによる学習上の困難さをICTを用いて改善・克服
例：点字ディスプレイ
パソコンによる音声読み上げ
タブレット端末等



個別の指導計画

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

資質・能力の育成

聴覚障がい教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

年間指導計画

個別の教育支援計画

単元指導計画

実態の多様化や少人数化により、他者と対話する機会が困難な場合がある。

- 発表や話し合いに取り組む時間を明確にし、意図的かつ計画的にICTを活用して言語活動の充実を図る。

物事の理解や概念の形成、学習面など、様々な側面に困難が生じることがある。

- 的確な言語概念の形成を図ることができるよう、教科横断的な視点を持ちながら効率的かつ効果的に体験的な活動に取り組めるようにする。

聴覚障がい教育におけるICT活用

聴覚障がいのある児童生徒には、視覚を活用して情報を獲得できるように、ICTを含む教材・教具やその活用方法等を工夫することにより、指導の効果を高めるようにする。

教科指導の効果を高める

【例】

- ・情報の探索、データ処理や視覚化、レポートの作成や情報発信などに一人一台端末を活用して学びの質を高めるとともに、児童生徒が自分にふさわしい学習方法を模索できるようにする。
- ・クラウド上で共同編集機能を用いることで、時間や場所の制約を超えて相互に感想を読み合うなど、児童生徒が他者の意見や考えを参照しながら学べる機会を確保する。



障がいによる学習上又は生活上の困難さを改善・克服する

【例】

- ・視覚的教材による具体的な提示
- ・各種資料・情報の焦点化
- ・音声認識ソフトによる情報保障
- ・コミュニケーション相手としての生成AIの活用
- ・遠隔手話通訳の利用 など



個別の指導計画

授業

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

学習評価

資質・能力の育成

知的障がい教育（義務）における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

年間指導計画

単元指導計画

知識・技能の定着に時間がかかることがある。

□ ICTを活用しながら主体的に学ぶ経験を重ねられるよう、具体的な活用場面や方法を明記する。

学習で得た知識や技能が断片的になりやすい。

□ 実際的な生活場面の中で、具体的に思考や判断・表現ができるよう、興味・関心や地域の実情等を踏まえた題材を設定する。

授業

学習評価

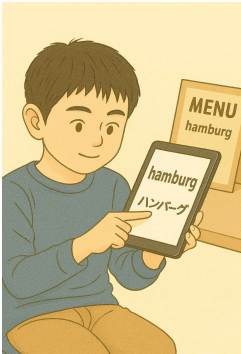
個別の教育支援計画

知的障がい教育におけるICT活用

義務教育段階の知的障がいのある児童生徒には、視覚情報も活用した情報提示やコミュニケーションの代替手段としての活用により、抽象的な内容の理解促進や他者との共同的な学習の促進を図るようにする。

教科指導の効果を高める

【例】



画像を分析して書かれている文章を読み上げるアプリを活用し、文字を読み上げたり、生活における文字情報を読んで理解できるように活用する。

障がいによる学習上又は生活上の困難さを改善・克服する

【例】



天候や天気図が変化する様子など、文字や言語の説明ではイメージすることが難しい事象について、写真や動画を活用し、理解したり、繰り返し確認するなどして活用する。

個別の指導計画

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

資質・能力の育成

知的障がい教育（高等部）における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

年間指導計画

単元指導計画

学習や行動が受身になっている場合がある。

机上での学習と作業等の活動を伴う場面の学習が関連付けられるよう、計画にそれぞれの活動を位置付ける。

学習で得た知識や技能が断片的になりやすい。

卒業後の生活を視野に入れ、ICTを活用した読み書きや調べ学習を効果的に位置付ける。

授業

学習評価

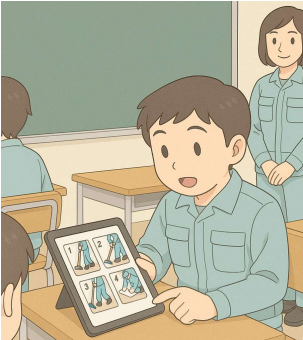
個別の教育支援計画

知的障がい教育(高等部)におけるICT活用

高等部段階の知的障がいのある生徒には、視覚情報も活用した情報提示やコミュニケーションの代替手段としての活用により、抽象的な内容の理解促進を図るとともに実際の社会生活を想定して指導する。

教科指導の効果を高める

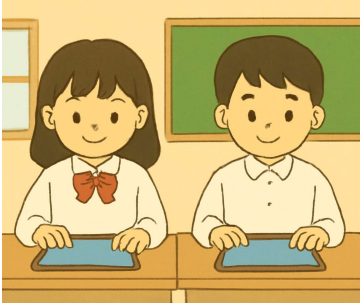
【例】



作業学習において工程を示したり、映像で手順を確認できるようにするなど、生徒が繰り返し確認し、自立して取り組めるように活用する。

✕ 障がいによる学習上又は生活上の困難さを改善・克服する

【例】

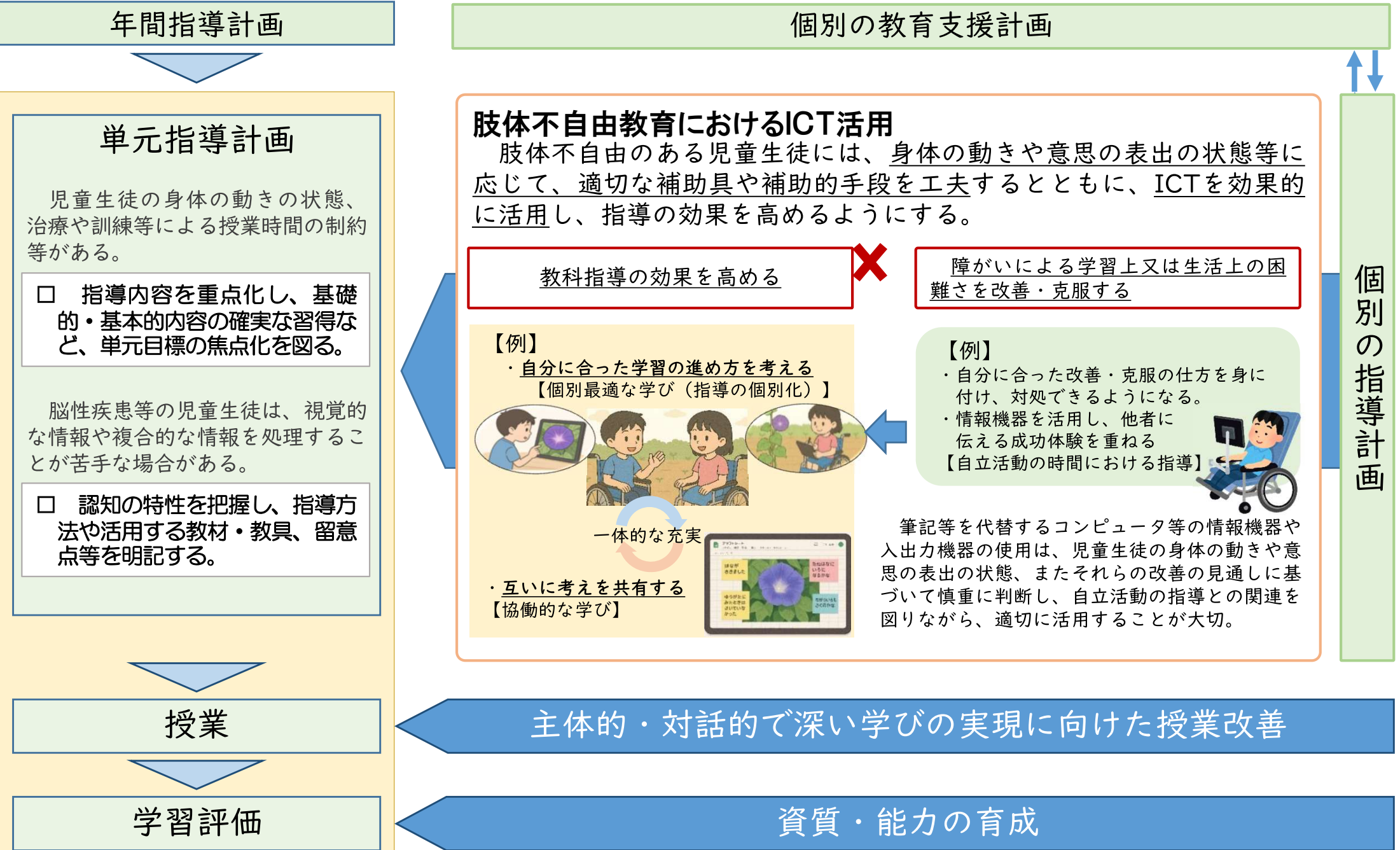


読み書きの苦手さをICTで補い、文章の内容や構成を考えて単語を並び替えたり、校正したりできるように活用する。

↑ ↓
個別の指導計画

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

資質・能力の育成



病弱教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

年間指導計画

個別の教育支援計画

単元指導計画

治療状況や体調によって学習時間等が制限され、学びの積み重ねが難しい場合がある。

- 基礎的・基本的な事項を効果的に習得できるよう、指導内容を精選する。

病状や学習環境等により、体験的な活動の実施が困難であったり、不足したりする場合がある。

- 間接体験や疑似体験、仮想体験等を学習内容として位置付ける等の指導の工夫を明記する。

病弱教育におけるICT活用

病弱の児童生徒には、身体活動の制限や認知の特性、学習環境等に応じて、教材・教具や入力支援機器等の補助用具を工夫するとともに、ICT効果的に活用し、指導の効果を高めるようにする。

教科指導の効果を高める

障がいによる学習上又は生活上の困難さを改善・克服する

【例】

- ・自ら学習課題を設定し取り組む【個別最適な学び（学習の個性化）】



一体的な充実

- ・多様な意見を共有しつつ合意形成を図る【協働的な学び】



【例】

- ・健康状態の維持や管理等に関する自己理解を深めながら学びに向かう力を高める。



【自立活動の時間における指導】

身体活動が制限されている児童生徒や高次脳機能障がい、小児がんの晩期合併症などにより認知上の特性がある児童生徒の指導に当たっては、実態に応じてICT機器を工夫し、学習が効果的に行えるようにすることが重要。

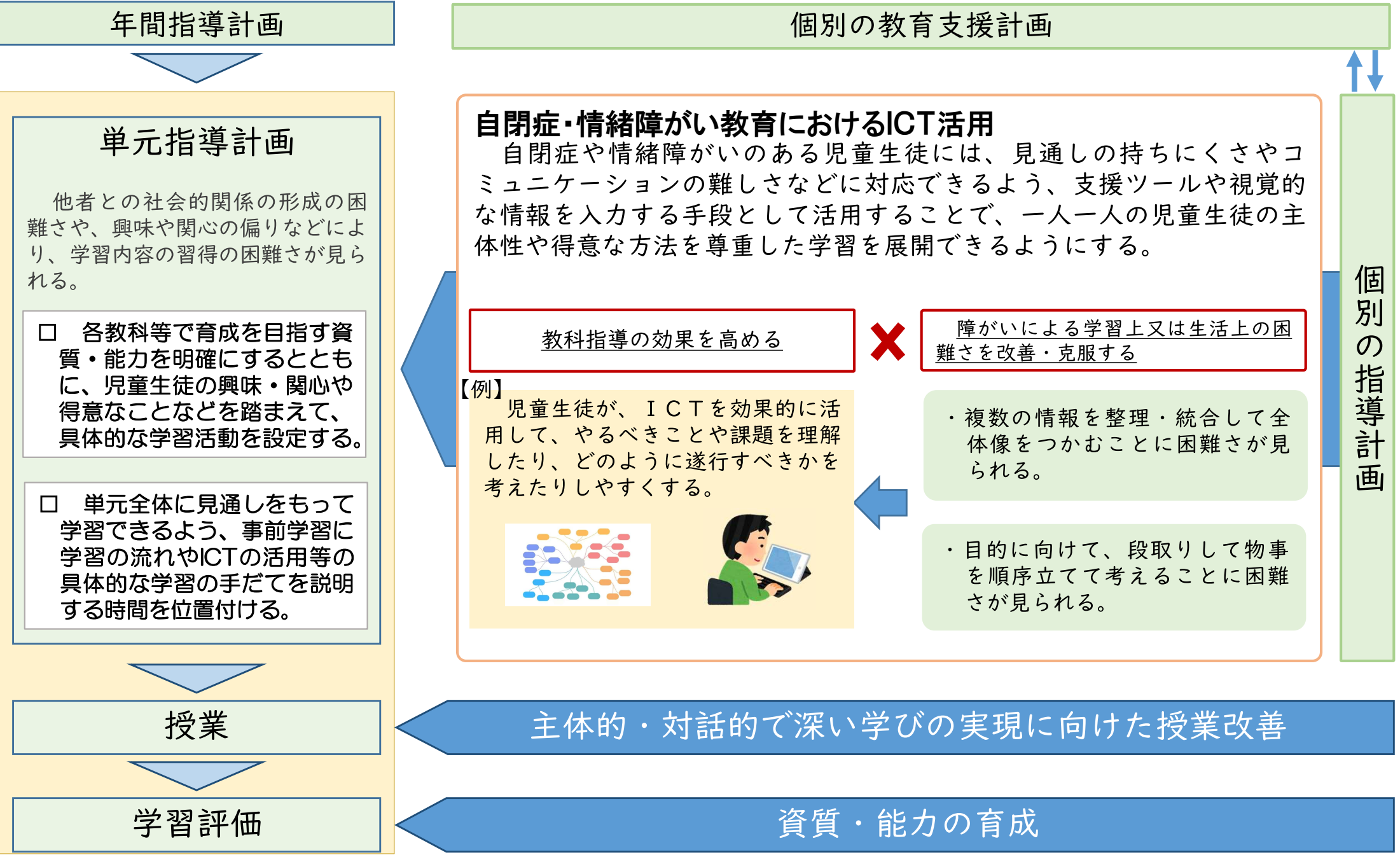
個別の指導計画

授業

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

学習評価

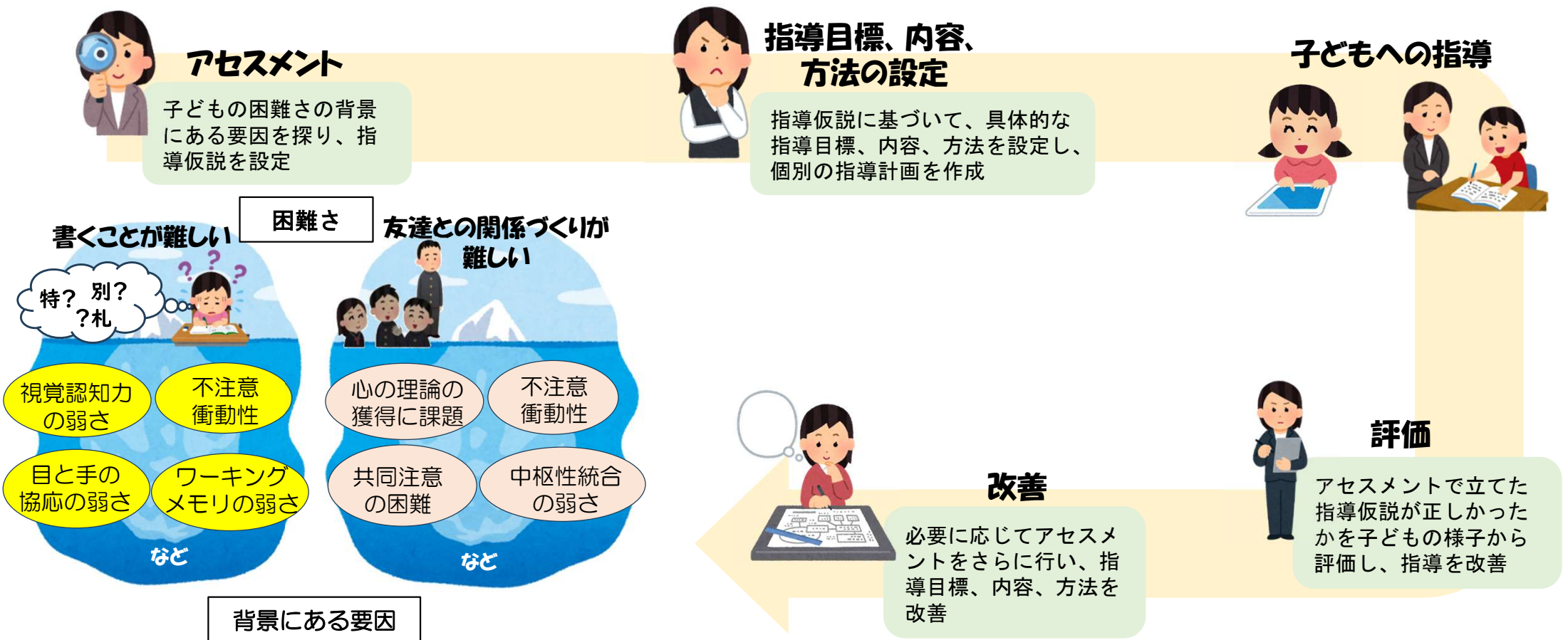
資質・能力の育成



アセスメントに基づく通級による指導の充実

通級による指導の効果を高めるためには、アセスメントが重要です。アセスメントは、様々な角度から子どもに関する情報を集め、結果を総合的に整理・解釈していく過程であり、その際には「なぜ子どもが困っているのか」「どうしてこのようなつまずきが生じるのか」という背景にある要因を探り、仮説を立てる必要があります。

この手引では、一見同じような困難さをもつ子どもに対して、背景にある要因を検討し、それに応じた指導を行う事例を掲載していますので、参考にしてください。



漢字を書くことが難しい児童生徒の事例①

生徒の様子（○強み、●困難さ）

中学校第1学年
Aさん



- 趣味のプラモデル作りの際は、手順書を読みながら、順番に組み立てることができる。
- 漢字は「横線が1、2、3本」、「縦線が…」などと唱えると、覚えやすい様子が見られる。
- 画数が多い漢字では、特に線が交差する部分の書き間違いが多く見られる。
- 漢字を書く際に、へんとなつくりが反転したり、つくりのみを書いたりすることが多い。

困難（漢字を書くことが難しい）の背景として考えられる要因

（仮説）

形を正確に捉えることが難しいのかもしれない？

- ・ 形を正確に捉えることが難しいため、漢字の大まかな形は分かるが、細部を正確に理解することが難しい。
- ・ 空間認知が弱いため、へんやつくりの位置、構成の配置を誤ることがある。



「形を正確に捉えることが難しい」生徒への指導の例

語呂合わせ



Point

生徒が自分で語呂合わせを考えて覚える。

多感覚の活用



Point

モールやブロックで漢字を形成するなど、運動感覚や触覚を活用する。

動画、アニメーションの活用



Point

書き順アニメーション、へんとなつくりの色分け、ペン入力などを活用する。

漢字を書くことが難しい児童生徒の事例②

児童の様子（○強み、●困難さ）

小学校第5学年
Bさん



- 見本を提示しながら間違えた漢字を指摘すると自分で確認しながら訂正することができる。
- 遊びやゲームのような活動には、楽しみながら意欲的に取り組むことができる。
- 漢字を書く際に、点や線が一部省略されたり、余分に追加されたりすることが多い。
- 形の似た漢字と書き間違えることが多い。
（例：「線」と「緑」を書き間違える）
- 何度も漢字を書いて練習しても、途中から字形が崩れたり、間違えて書いたりする。

困難（漢字を書くことが難しい）の背景として考えられる要因

（仮説）

不注意があったり、注意の持続が難しかったりするのかもしれない？

- ・ 不注意があるため、形の似た漢字を書いたり、点や線を書き忘れたりして間違える。
- ・ 注意が持続しないため、時間が経つと字形が崩れたり、画の抜け落ち、似た形の漢字との取り違えなどの誤りが多くなったりする。

「不注意があったり、注意の持続が難しかったりする」児童への指導の例

覚え方の工夫

時 海

Point

間違いやすいところを取り出して書き取りをする。

セルフチェックの工夫



Point

児童がポイントを見ながら自分で確認することで、見直すことを習慣化する。

環境の工夫



Point

集中できるよう課題の量を調整し、決まった数を丁寧に書いて練習する。

漢字を書くことが難しい児童生徒の事例③

児童の様子（○強み、●困難さ）

小学校第2学年
Cさん



- パズルや折り紙で遊ぶことが好き。
- 学習意欲が高く、文字を美しく書くことを目指して繰り返し練習をしている。
- ノートに文字を書く際、文字がマス目の枠外にはみ出してしまう。
- 漢字を書く際、へんとつくりの配置や大きさのバランスが崩れやすい。
- 他児と比べて漢字を書くのに時間がかかる。

困難（漢字を書くことが難しい）の背景として考えられる要因

（仮説）

目と手を協応させることが難しいのかもしれない？

- ・ 指先の微細運動が上手くできないため、漢字を書く際に字形が整わなかったり、枠からはみ出したりしてしまう。
- ・ 目で見た情報と手の運動をつなぐことに時間がかかるため、書字の速度が遅い。

「目と手を協応させることが難しい」児童への指導の例

見ることに頼らない学習の工夫

漢字をモールで作って、指でなぞってみよう



体

Point

モールやシールで漢字を形成し、指先でなぞる。

協応を高める活動の工夫



Point

ビーズ通しや迷路、点つなぎなど、児童が楽しめる活動を通して、目と手の協応を高める。

ICTの活用

漢字を大きくして見てみよう



算

Point

タブレットでのなぞり書きや、拡大表示などを活用し、指先の細かな動きの負担を軽減

友達との関係づくりにつまずきのある生徒の事例①

生徒の様子（○強み、●困難さ）

高等学校
第1学年Dさん



- 自分の好きなゲームを友達に紹介するときに、順序立てて説明することができる。
（例：〇〇を〇〇すると敵を倒すことができる。）
- 悪ふざけをしている友だちからの誘いを断ることができる。
- 相手は退屈そうにしているにもかかわらず、自分が好きなゲームやアニメの話を一方的にし続ける。
- テストの点数が悪かった友だちに対して、「こんな問題簡単だよ」と思ったことを言う。

困難（友達との関係づくりにつまずきのある）の背景として考えられる要因

（仮説）

周囲の状況を理解することや他者視点に立つことが苦手なのでは？

- ・相手の表情などに注意を向けることが苦手なため、友だちとの関わり方が一方的になる。
- ・場の雰囲気を感じることが苦手なため、暗黙のルールが分からない。
- ・他者視点に立つことが苦手なため、自分の言動で相手がどう感じるか想像して振る舞うことが難しい。

「他者視点に立つことが苦手」な生徒への指導の例

暗黙のルールに関する
「あるあるネタ帳」づくり

みんなが知って
そうな歌の方が
盛り上がる。



カラオケでは、
みんなが順番に歌
えるように、1曲
ずつ入れる。

Point

学習や生活の中で困難が想定される場面について、暗黙のルールを視覚化し、理解を促す。

ロールプレイ



次は先生の
ターン

Point

良い行動（交互に会話）と悪い行動（一方的に話しをされる）を体験し、どのような気持ちになるかを体感する。

動画で他者視点を理解

相手はどんな
気持ちだった
のかな？



ありが
とう…

このキャラクター
が〇〇で、〇〇な
性格だね～

Point

Dさんの課題となる行動を教師が演じて録画する。動画を視聴し、相手の表情から気持ちを推測させる。

友達との関係づくりにつまずきのある生徒の事例②

生徒の様子（○強み、●困難さ）

高等学校
第1学年Eさん



- 反応が早く、行動力があり迷わずに行動できる。
- 裏表がない性格で、思ったことを素直に言うことができる。
- 楽しくなり過ぎると冗談のつもりで発言したことが、相手を傷つけてしまうことがある。
（例：髪を切った友だちに、「ダサっ」と言う）
- 相手の反応を待てないことや感情を抑えられずに行動することがある。
（例：SNSの返信がすぐにないと、「なんで返さないの?!」と強い言葉で連投する）

困難（友達との関係づくりにつまずきのある）の背景として考えられる要因

（仮説）

衝動性が高く、行動をコントロールすることが難しいのかもしれない？

- ・ 衝動性が高いため、考える前に思ったことをすぐに口にしてしまい、結果的に相手を傷付けてしまうことがある。
- ・ 行動のコントロールが難しいため、同様の失言を繰り返してしまう。



「衝動性が高く、行動をコントロールすることが難しい」生徒への指導の例

自己コントロールの学習



SNSに返信する前に、一旦、メモアプリに保存しておいた、注意事項を確認してみよう。

Point

「待つ（深呼吸）→考える→行動する」ことを練習する。
リマインダーとしてメモアプリを自分で確認する。

言い換えゲーム



「うるさい」と、
言いたいとこだけど...

元気いっぱいだね
パワフルだね。
明るい人だね。

Point

相手との関係が悪くならない言い方を練習する。

振り返りと記録

どんな場面で何があった？
あなたは思った？
次はどうしたらいい？



上手にいく
ことが
増えてきた！

Point

トラブルや上手に対応できたことを振り返り、タブレットに記録する。少しずつ上手に対応できた出来事が増えることで自信をもたせる。